

No. 1036

江川、阪急が指名

—ドラフト会議—

昭和48年度プロ野球新人選択（ドラフト）会議は、11月20日午前11時半から東京・日比谷の日生会館で開かれました。新球団、日本ハムの三原社長中西監督の親子コンビをはじめ、近鉄西本、阪急上田、大洋宮崎、広島森永の新しく就任した監督も緊張感を漂わせて出席。指名順を決める本抽選を行い、午後1時よりいよいよ指名。昨年に引きつづき、一番を引いた大洋は山下大輔（内野手慶大）二番の南海は藤田学（投手南宇和）東都リーグで活躍した栗橋茂（外野手駒大）を近鉄が、藤波行雄（外野手中大）を中日がそれぞれ指名。注目の江川卓（投手作新）の名はなかなか上がらない。6番目の阪急がようやく江川を指名。江川の影で泣いてきた同じ作新の投手大橋康延を大洋が2順目に指名した。

プロにはいかず進学を決めているという江川卓。阪急側は総力をあげて逸材江川説得にのりだす決意を固めた。この日、宅都宮の作新学院で大橋、江川両投手の会見が行なわれ、その席上大橋投手は、指名したのが在京球団なのでホットしている。とプロ入りの意志を表明。一方、江川投手は、進学の意志は決まっている。無駄だと思う。とキッパリプロ入り拒否の姿勢を表明、ドラフト会議で江川を指名した阪急、はたして説得なるか、今後の交渉はむずかしい事態になったようです。

石油危機

GNP世界第3位、経済大国日本、ジャンボ・ジェット機、高速道路を疾走する車群、カラーテレビ等高度に発達した機械・文明は繁栄の証であった。*石油制限、たった一つの規制に高度成長を誇る日本は足元から揺れた。11月16日緊急会議に全閣僚は首相官邸に召集された。田中首相を本部長とする緊急対策推進本部の設置も決った。二階堂官房長官は国民の協力を呼びかけ、中曽根大臣はこの難局を乗り越えるために超党派を討え、各党を回った。11月20日から節約運動はスタート、政府も自から手本を示した。が、石油危機の荒波を*もろ、に受けたのが中小企業だ。ある企業主は……原料不足が深刻で、もうお先真暗らだ、政府は何とかしてほしい……となげく。

一方、無形文化財にも指摘され、倒産寸前だった鋳物工場は、石油危機でにわかに脚光を浴びた。家庭用だるまストーブは飛ぶような売れゆき、皮肉な現象である。消費文明の中で牙城を築きあげてきたデパートはこれから歳末商戦に入る。そこにも石油危機の濃が影が見られる。絶えることのなかったネオンが夜の街から消えた。日本はこれから寒い冬を迎えようとしている。石油危機はまだまだ続くという。生活の不安は高まるばかりだ。